

令和6(2024)年度 病虫害発生予報 第12号

令和7(2025)年3月14日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

春は様々な病虫害が増え始める時期です。予防と早期発見で被害を防ぎましょう！

予想期間 3月中旬～4月中旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 抛 ・ 現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比63%、株率：平年比50%）。(±)
- ・ 向こう1か月の気温はほぼ平年並(±)、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間は平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、下葉を除去し株元の風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。
- ・ 取り残しの過熟果は発生源となりやすいので適期に収穫する。
- ・ 発病した果実や果梗等は伝染源となるので、放置せずに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
- ・ 予防を主体に、ファンタジスタ顆粒水和剤(RAC コード F:11)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ 灰色かび病薬剤感受性検定結果を当センターホームページ(HP)に掲載中。

2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 抛 ・ 現在の発生量は多い（ほ場率：平年比365%）。(+)
- ・ 向こう1か月の気温はほぼ平年並(±)、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間は平年並(±)の見込み。
- (3) 対策 ・ 株が軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行う。
- ・ 予防を主体に、ショウチノスケフロアブル(F:9,U13)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- ・ 曇雨天時にはくん煙剤を使用する。なお、硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるので天敵導入ほ場では長時間の実施は避ける。

3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや少ない**
- (2) 根 抛 ・ 現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比53%、株率：平年比63%）。(-～±)
- ・ 向こう1か月の気温はほぼ平年並(±)、日照時間は平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
- ・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ・ 天敵を放飼する際にハダニ類が多いと抑制までに時間がかかるため、事前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤でハダニ類の密度を抑制する。
- (4) 備 考 ・ ナミハダニ薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。

4 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 抛 ・ 現在の発生量は平年並（ほ場率：平年比104%、株率：平年比53%）。(±)
- ・ 向こう1か月の気温はほぼ平年並(±)、日照時間は平年並(±)の見込み。
- (3) 対 策 ・ ほ場をよく観察し、マルチにアブラムシ類が分泌した甘露や白い脱皮殻を見つけたら適切に防除する。
- ・ 茎葉が繁茂すると薬剤がかかりにくく、防除に失敗しやすくなるので、葉かき後に薬剤を散布する。
- ・ 発生を確認したらウララ DF(I:29)等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- ・ コレマンアブラバチ等の天敵製剤を使用する際は、アブラムシ類の密度が高いと抑制までに時間がかかるため、低密度のうちに導入する。また、導入後はこまめにアブラムシ類の発生か所を観察し、マミーができていることを確認する。
- (4) 備 考 ・ ワタアブラムシに対する主要薬剤の殺虫効果を当センターホームページ(HP)に掲載中。

5 いちご アザミウマ類

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い（ほ場率：平年比 180%、株率：平年比 278%）。(±～+)
- ・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並（±）、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ ハウス内で越冬したアザミウマ類が急増するこの時期から早期発見・早期防除に努める。着色前の未成熟果を観察し、表面がサビ色になる幼虫の食害を認めたら、マツチ乳剤(I:15)等を散布して次世代の発生を防止する。
- ・ 1 割以上の花で成虫の寄生がみられる時（要防除水準）には、スピノエース顆粒水和剤（I:5）等を散布することで被害拡大を防ぐ。
- (4) 備 考 ・ 植物防疫ニュース No. 14、防除のポイントNo.19、アザミウマ薬剤感受性検定結果①、②を当センターHP に掲載中。

6 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない（ほ場率：平年比 27%、株率：平年比 17%）。(－～±)
- ・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並（±）、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ 施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。
- ・ 発病した果実や葉等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で適切に処分する。また、枯れ込んだ葉先から病徴が広がるため、こまめに取り除く。
- ・ 予防を主体に、セイビアーフロアブル 20（F:12）等を葉裏にもよくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・ 灰色かび病薬剤感受性検定結果を当センターホームページ（HP）に掲載中。

7 トマト コナジラミ類（黄化葉巻病（TYLCV）、黄化病（ToCV））

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在のコナジラミ類の発生量は多い（ほ場率：平年比 188%）（+）。
- ・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並（±）、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ 黄色粘着板の設置により、コナジラミ類の早期発見に努め、適切に防除する。
- ・ ウイルス病の発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取る。抜き取った株は放置せず、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
- ・ トマトでは黄化葉巻病の耐病性品種を作付けした場合でも、黄化病の被害やコナジラミ類の甘露による果実等の汚れが発生することがあるため、コナジラミ類の対策を実施する。
- (4) 備 考 ・ 防除のポイントNo.22、タバココナジラミ薬剤感受性検定結果を当センターHP に掲載中。

8 たまねぎ ベと病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い（ほ場率：平年比 212%）。(＋)
- ・ 向こう 1 か月の気温はほぼ平年並（±）、降水量はほぼ平年並(±)、日照時間は平年並（±）の見込み。
- (3) 対 策 ・ 雨水が停滞すると発生しやすくなるので、ほ場の排水をよくする。
- ・ 発病株は伝染源となるので、速やかに抜き取り、ほ場外で処分する。
- ・ 予防を主体にジマンダイセン水和剤(F:M3)等を散布する。発生が見られる場合は、オロンディスウルトラ SC(F:49,F:40)等を散布する。曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前に薬剤を散布する。

9 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
きゅうり	べと病	やや多	やや多	きく	アザミウマ類	並	並
	褐斑病	多	多		ハダニ類	やや少	やや少

【 季節の病害虫防除対策 】

○水稻の種子伝染性病害の対策について

種子消毒を適切に行い、使用する床土や育苗箱、育苗器などの育苗資材・器具もしっかり消毒することで、苗立枯病や種子伝染性病害の発生を防止しましょう。

近年、特に育苗期間中の高温が原因と考えられる病害（もみ枯細菌病、苗立枯細菌病など）の発生がみられていますので、適正な温湿度管理に留意しましょう。

○麦類赤かび病

赤かび病は予防が重要です。出穂や開花の状況をよく観察して、適期に赤かび病防除を行いましょう。

○ナシ黒星病の春期防除を徹底しましょう

当センターにおける2月27日発表の本年の幸水の開花始は4月18日で、昨年より4日遅い予測となっています。黒星病の第一次伝染時期であるりん片脱落期から開花後は最重要防除期です。果そう基部病斑（芽基部病斑）の摘み取りを徹底し、2分咲きから落花直後に予防効果の高いDMI剤を散布しましょう。ナシ黒星病菌の簡易薬剤感受性検定結果を当センターHPに掲載中。

○ハウス内で越冬した害虫の増加に注意

春先の気温の上昇に伴い、アザミウマ類やアブラムシ類、コナジラミ類など、ハウス内で越冬した害虫の増加が目立ち始めます。発生に気づくのが遅れてまん延を許すと、大きな損失に繋がるだけでなく、防除も困難となります。こまめにほ場を観察することで、早期発見に努め、被害発生前に適切に防除しましょう。

【 農薬の安全使用等 】

○薬剤抵抗性発達の抑制

- ・薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

○有用生物への影響に留意

- ・花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

○農薬適正使用の徹底

- ・農薬は適正に保管・管理しましょう。
- ・農薬を使用する際は、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
- ・薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

1か月気象予報（予報期間3月15日から4月14日 3月13日 気象庁発表）

- ・1週目の気温は低いですが、2週目はかなり高くなる可能性があり、期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項 目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	3 0	3 0	4 0
降 水 量	3 0	3 0	4 0
日照時間	3 0	4 0	3 0

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX（旧ツイッター）「栃木県農政部(@tochigi_nousei)」、農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でもご覧になれます。

